令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立萩中小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・造形的視点を発達段階に沿って組み込むことで、工夫して表す力が高まった。
- ・思考を働かせる題材の工夫により、表したいことや主題を見付ける力が高まった。
- ・鑑賞活動の充実により、活動に対して意欲的に取り組んでいこうとする児童が増えた。

(2) 課題

- ・諸活動を通して計画的に材料や用具を幅広く扱うようにし、十分な経験や技能を育む必要がある。
- ・対話による思考の広がり、深まりが不十分である。
- ・うまく表現できないときに、よりよい作品にしていこうとする主体性が下がってしまうことがある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○画用紙や粘土、クレヨンやパスなどの身近な材料、のりやはさみなどの扱いやすい用具に十分に慣れさせることで、創造的な技能の向上を図る。	○形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、表したいことを見付け、どのように表すか考えることができるように、対話を通して指導していく。	○自分の作品の面白さに気付いたり、楽しんだりできるように題材設定や導入を工夫していく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○使う用具や材料の幅が大きく広がるため、適切に扱う力を身に付けさせる。	○対話を通じたコミュニケーションを図ることによって、アイデアをさらに広げたり、深めたりすることができるようにしていく。	○ペアやグループ活動を通して、表現することに自信をもち、次の活動への意欲につなげる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○広く材料や用具を扱う場面を設定する。 ○形や造形的な視点を取り上げる場면을計画的に取り入れることで、造形的な工夫の向上を図る。	○教師が寄り添い対話していくことで、発想のよさや工夫に対する児童自身の認知を確立させ、価値付けていく。	○達成感のある題材や、思考を深めていくことができる題材をつくることで、作品に愛着をもちながら取り組むことができるようにする。